

座長 本多 裕之 予防早期医療創成センター 教授		
時間	タイトル	内容
14:00 ～ 14:30	健康経営でウェルネスからハピネスへ ー内発的動機付けによる行動変容ー アクサ生命保険株式会社 コーポレート営業統括部 東京法人営業部 営業第三グループ 担当課長 岡田 猛	急速な少子高齢化・生産年齢人口減少は、様々な不安を私たちにもたらす。「人生百年時代においてあなたは百歳まで生きたいですか」という弊社調べのアンケートでも、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて21.2%という結果にとどまっている。アクサ生命では、人生の目標や夢という内発的動機付けに基づいたいきいきとした生活や健康に向けた行動変容を、健康経営を通して支援している。本発表ではその骨子を紹介する。
14:30 ～ 15:00	IoTシステムを用いた個別化予防 ーロイヤルティーの向上と行動変容ー 名古屋大学 予防早期医療創成センター 特任教授 吉田 安子	予防早期医療創成センターでは「手のひらに名医・大病院」をキャッチフレーズに健康寿命の延伸や社会参加寿命の延伸を目指している。研究プロジェクトの一貫として、個人に紐付く健康データの推移等を「マイページ」で「見える化」し、自発的な行動変容を励起するシステムを構築してきた。そのシステムが生活習慣病予防に効果的か実証試験を重ねる中で気づかされた「見える化」以外の行動変容のきっかけについて紹介し、現在進行中の実証研究について説明する。
15:00 ～ 15:30	自治体によるヘルスケア産業の 活用促進 ーなぜ自治体が企業と高齢者の 仲立ちをするのかー 豊明市健康福祉部 健康長寿課 兼 保健センター 課長 兼 所長 小川 正寿	急速に進む地域の高齢化と増え続ける社会保障費の中で高齢者の暮らしをどう支えていくかは自治体にとって大きな課題である。豊明市では、市職員がスーパー銭湯のPRをするという、不思議な光景が見られる。市では年100回以上開催する地域の体操教室で、民間のフィットネス施設、温泉施設、スーパー、カラオケボックスなどのサービスやイベントのチラシを配布するなどして住民に利用を促している。豊明市が、これまでタブー視されてきた行政による特定の民間サービスの斡旋に乗り出したねらいとは、そしてそこから見えてきたものは何か。
5分 小休止		

座長 武田 浩一 名古屋大学大学院 情報学研究科 教授 価値創造研究センター長		
時間	タイトル	内容
14:00 ～ 14:30	地域包括ケアシステムを支える ICT導入事例 株式会社 日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット 経営戦略室 部長代理 光城 元博	超少子高齢・人口減社会に対応する「地域包括ケアシステム」の施策動向と、自治体の介護・見守り情報をセキュアに開示・分析することで、在宅ケア・健康づくりを支援する取り組みなど、ICT活用事例を紹介する。
14:30 ～ 15:00	保健医療分野における AI活用の可能性 株式会社オプティム インダストリー事業本部 サブマネージャー 瀬戸 順二	オプティムでは、「世界一、AIを実用化させる」というスローガンを基に、各産業に実運用に即したAIのソリューションを提供している。例えば、農業分野であればAIで害虫を検知し、害虫がいる箇所にのみ農薬を散布するという技術により、農薬の使用量を低減させる取り組みを行っている。保健医療分野において、患者の転倒検知や認知症患者の徘徊防止等、AI活用の可能性を紹介する。
15:00 ～ 15:30	ユニバーサルIoTプラットフォームで 実現する未来の健康社会の可能性 株式会社インフォコーパス 代表取締役社長 鈴木 潤一	ウェアラブル端末や医療機器、環境センサーから収集するあらゆるデータを、ユニバーサルIoTプラットフォーム「センサーコーパス」上で適切に管理し活用することにより、遠隔医療、AI診断、健康管理のパーソナライズ化、他医療機関や民間機関との連携等、人々は様々な恩恵を享受することができる。本講演では、ユニバーサルIoTプラットフォーム「センサーコーパス」で実現する未来の健康社会の可能性について説明する。
5分 小休止		



名古屋大学博物館（夏）





座長 澤田 誠 環境医学研究所 教授

時間	タイトル	内容
15:35 ～ 16:05	脳のクセを知って健康行動を促進！ ～脳科学の予防医学への貢献可能性 ～ NTTデータ経営研究所 ニューロイノベーションユニット シニアマネージャー 茨木 拓也	人の知覚や意思決定を脳の情報処理の観点からアプローチする脳科学は、行動科学・心理科学などとの融合分野として学際的な学問として進化を続けている。その応用範囲として、予防医学・健康行動の推進にも期待が持たれている。今回、脳科学分野の産業応用の視点から研究・経営支援を行っている立場から、脳科学についての総論や最新の動向・予防医学に貢献可能性のある脳科学の知見を紹介する。
16:05 ～ 16:35	人はなぜスタバに行くのか？ ～ 名古屋大学大学院情報学研究科 講師 笹原 和俊	スターバックス（スタバ）の店内はセイレーンのロゴ入りカップをもつ客で賑わっている。コーヒーが決して安いとはいえないスタバに多くの人々が訪れるのはなぜだろうか？本研究では、グルメサイト「食べログ」からスタバに関するユーザの評価や感想のデータを収集し、私たちが（コーヒー以外に）何をスタバに求めているのかについて分析した。本発表では、食のビッグデータから見えてくる“スターバックスネス”について報告する。
5分 小休止		

- 8 -



座長 平田 仁 予防早期医療創成センター 教授

時間	タイトル	内容
15:35 ～ 16:05	尿中マイクロRNAの機械学習解析によるがん診断 ～ 名古屋大学大学院工学研究科 生命分子工学専攻 准教授 安井 隆雄	ナノテクノロジーを駆使し、尿中の微量なエクソソーム(がん細胞が放出する特異的な物質)に含まれるマイクロRNAを効率よく検出できる高機能ナノデバイスの開発を進めてきた。尿中マイクロRNA検出技術と機械学習解析技術との組み合わせで、高特異度・高感度ながん診断を可能にする新たな技術を紹介する。
16:05 ～ 16:35	エッジAI活用糖尿病予防に向けたコンタクトレンズ型持続血糖モニタリング ～ 名古屋大学大学院工学研究科 准教授 新津 葵一	すべての人に健康と福祉を提供することにおけた研究開発を行っている。生活習慣病の予防早期医療創成には、エッジAI・IoTプラットフォームの活用が有効である。本講演においては、我々が開発中のエッジ人工知能を活用した糖尿病予防に資する、単独自律動作可能・コンタクトレンズ型持続血糖モニタリング技術を紹介する。最先端の人工知能・IoT技術を用いた、予防早期医療の将来像について糖尿病予防を事例として紹介する。
5分 小休止		

- 9 -



野依記念学術交流館(夏)



1-3		第1会場 カンファレンスホール		グローバルな視点で「PHR」を考える	2-3	第2会場 1階 会議室		Lifestyle Solution
		座長 吉田 安子 予防早期医療創成センター 特任教授				座長 若林 俊彦 名古屋大学大学院医学系研究科 教授		
時間	タイトル	内容		時間	タイトル	内容		
16:40 ～ 17:10	海外駐在員事例にみる生活習慣病予防の実際～各国事情を踏まえた考察 株式会社ウェルビーマーケティングジャパン 名古屋支店長 俞 廣禮 (ユウ コウレイ)	日系企業の精力的なGlobal化に伴い、駐在員の健康リスクも拡大の一途を辿る現代。毎年5～600名の邦人死亡の70%を占める原因が、外務省統計によると脳・心疾患・突然死である。健康経営から見落としがちになる外地の社員を救う方法とは、その予防対策とはなにか。日本以上のスピードで影響力を増す生活習慣病、外地医療実例を基に健康履歴・PHRを駆使した医療体制を構築する。		16:40 ～ 17:10	オンラインレッスンツールによる運動習慣向上の試み ソフトバンク株式会社 人事総務統括CSR統括部 ソーシャルビジネス2課 課長 宮川 拓也	インターネット上で、時間や場所にとらわれずに、スポーツ等のプライベートレッスンが受けられるサービス「スマートコーチ」。これにより、子どもから高齢者まで幅広い層への継続的な運動習慣の向上を図る。また、自治体と連携して、このサービスを学校現場で活用することで、部活動顧問の負荷軽減や子どもへの質の高い指導を届けることにも寄与する。		
17:10 ～ 17:40	オランダにおけるPHRを中心とした健康寿命延伸への取り組み (株)国際社会経済研究所 調査研究部 主幹研究員 遊間 和子	高い医療水準と手厚い社会保障のイメージの強かったオランダだが、財政悪化を背景に、より効率的で効果的な政策を目指してeHealthへの取り組みを強化している。医療機関・薬局等における電子化や全国規模のHIEが整備され、次はPHR普及を進めている。オランダの特徴は、民間組織・企業の力に任せることでイノベーションを起こすことで、PHR普及を加速化するための「Medmijプロジェクト」を中心に新たな取り組みを紹介する。		17:10 ～ 17:40	ユーザの要求に柔軟に対応するためのレシピ情報処理 名古屋大学大学院情報学研究科 知能システム学専攻 准教授 井手 一郎	ユーザが求めるレシピは、体質や嗜好、体調や気分など内的要因、旬や気候、価格や在庫状況など外的要因が組み合わさったものである。これらの要求に応えるために、ウェブ上の大量の料理レシピをマイニングすることにより食材の代替可能性を明らかにする研究を行っている。食材の組み合わせの典型性の定量的評価に関する研究を紹介するとともに、料理レシピ生成に関する最新の研究動向について紹介する。		
17:40 ～ 18:10	ヘルスケア・データによるvalue co-creationモデル 世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター ヘルスケア・データ政策プロジェクト長 藤田 卓仙	パーソナルデータの活用への期待は高まっているが、プライバシー等への配慮も同時に求められ、EUのGDPRをはじめとする法規制が世界的に整備されつつある。世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターでは、ヘルスケア・データ政策プロジェクトとして、ヘルスケア・データによるvalue co-creationモデルを検討している。世界的な潮流を踏まえ、超高齢社会における、新しい都市・地域・国家像を提示する。		17:40 ～ 18:10	イオンの次世代モールハピネスモールについて イオン株式会社 アドバイザー 岡内 祐一郎	全国で数多くショッピングセンターを展開するイオンは、小売業は地域産業であり、地域の課題はイオンの課題でもある「企業市民」という考え方と行動規範を持つ。超高齢化社会において、生活者が今後も地域で健康で豊かな生活をおくる為には、新しい社会システムの構築が喫緊の課題である。生活者に一番近い産業として強い顧客基盤を基に、イオンが考える地域エコシステム概念と、新しいショッピングセンターの姿について紹介する。		
5分 小休止				小休止		カンファレンスホールへ移動		
18:15～ 18:20	挨拶	財満 鎮明 理事 副総長 学術研究・産学官連携推進本部長						
		-10-				-11-		



菜の花ごしの豊田講堂(春)